

1 研究主題

「自ら学び、共にひびき合える子どもの育成」

～思いやりの心を育てる道德教育～

2 主題設定の理由

本校の学校教育目標

「豊かな心を持ち、学び合い高め合いながら たくましく生きる子どもの育成」

「みがけよ心 きたえよ体 自ら学ぶ豊川の子」

めざす児童像

- ・やさしい子…相手を思いやる心あたたかい子
- ・たくましい子…心と体をきたえ、最後までがんばる子
- ・かしこい子…自ら学び、考え、進んで行動できる子

現在、情報化や少子化、核家族化といった言葉で表現される社会環境の中に子どもたちは置かれ、受け身的な姿勢や、音声言語や文字表記による表現力の不足、社会性に欠けた言動などがしばしば指摘されるところである。

本校の子どもたちも、「与えられた課題は熱心に取り組むが、自ら課題を見出すことがなかなかできない」、「自分の思いや考えを相手に上手に伝えられない」、「互いに認め合い協力しながら共に学ぶ（育つ）ことが十分にできていない」といった実態が見られる。

そこで、子どもが自ら課題を見つけ、試行錯誤しながらその課題を解決しようと努める中で、自分の周りの人や自然などに意欲的に関わり、そのよさを理解し、共生していこうとする力を育てたいと考える。また、この主題に取り組むことにより、「生きる力」を育てることができると考える。

本校では「自ら学び、共にひびき合える子どもの育成」を研究主題のもと、平成25年度から、国語科（読み物教材）を窓口として研究を進めてきた。これまでに「話し合いのルール作りや意図的なグループ編成などにより、発言しやすい雰囲気を作ることができた。」「『～さんと似ていて』や『違って』と話を受けての対応ができるようになってきた。」「ペアやグループでの意見交流、話し合いの場を設けたことは、自分の意見を深めたり広げたりする上でとても有効であった。」といった成果があった一方で、以下のような課題も見えてきた。

- ・自分の考えをもつこと、学習の記録をしていくものなどのために、自分の考えを書くことを習慣づけていく必要がある。ワークシートなど、書かせ方を工夫していくことも課題である。
- ・子どもたちと教師の思考の流れにずれが生じたときの手立てを考えていきたい。

- ・型にはまった話し合いになりがちであるので、もう少し自分たちで話し合いを深めていけるようにしていきたい。意見を言うだけになってしまわないようにしたい。
- ・発問や教材の分析について話し合い、さらに、指導力を磨いていくことが大切である。

本校の子どもたちは、明るく素直で、自分の課題に向けて前向きに取り組むことができる反面、自ら課題を設定したり、自分の考えを友達と伝え合いながら高め合ったりすることに課題がある。

昨年度の学校経営アンケートでは、「心のこもった優しい言葉遣いやあいさつができる子」という設問について、「できている」と回答した保護者が2割程度いたが、「できていない」「あまりできていない」と回答した保護者も2割近くいた。教師による学校評価でも、同様の評価であった。

社会の中でよりよく生きていくためには、知識や思考力も当然大切だが、相手を思いやることのできる豊かな心をもつこととともに、自分の思いを自由に表現し合いながら、善悪の判断ができる力を磨いていくことが必要であると考え、それらの力を身につけさせるために、道徳を窓口とし、共に学び合える授業を作っていきたいと考え、本研究主題を設定した。

3 研究主題及び副主題の内容について

◎ 研究主題：「自ら学び、共にひびき合える子どもの育成」について

(1) 「自ら学ぶ」とは・・・

学ぶとは、その思いが、様々なかかわりあいを通して、自分を見つめ、生きる喜びを実感しながら、生き生きと充実した思いや考えを表現することである。自ら学ぶとは、自分の経験や既習の力を使って自ら課題を見つけたり、学んだことを実践しようとしたりすることができる子どもの姿として捉える。

また、自分の思いや考えを、言葉を媒体として豊かに表現できる子どもの姿を目指したい。双方向の交流の中で、自分の考えや思いをさらに豊かに実らせていくことが、自ら学ぶことへと結びついていくと考える。

(2) 「共にひびき合える」とは・・・

共にひびき合っていくためには、まず自分の考えをしっかりと持つことから始まる。自分の考えができると、それを誰かに伝えたい、自分の考えと友達の考えを比べたい、他の考え方も知りたい、という願いを持つ。そういった願いをもつ子ども同士が考えを伝え合うことで、ひびき合うのである。ひびき合いが生まれることで、子どもがお互いの考え方の共通点や相違点に気づいたり、自分の考えが整理されたり、自分の考えに自信を持ったりするなどの変容が見られることを期待したい。

そのために、子どもの意欲や関心をかきたてたり価値観をゆさぶったりすることができ、子どもにとっての必要感がある題材の設定が大切となってくる。

研究の副主題

「思いやりの心を育てる道徳教育」

道徳教育は、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて道徳性を養うことを目標としている。道徳の時間は、道徳教育でとらえた道徳的諸価値を補充、深化、統合する計画的で発展的な学習により、道徳的実践力を育成する時間として位置づいている。また、道徳教育で養う道徳性は、道徳的行為や道徳的習慣までも含めた人格特性だが、道徳的実践力は、将来出会うであろう様々な場面、状況においても、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができる内面的資質のことである。

道徳の時間では、まず「自分の疑問・戸惑い・立ち止まり」を大切にしたい。そして教師と子どもが共に考える中で、教師が「ゆさぶり」をかけ、多様な価値観にふれながら視野を広げたり、お互いの考えを認め合ったりすることができるようにしたい。道徳の時間の中で子どもが即座に変容することを期待するのではなく、道徳の時間は子どもが自由に自分の思いを表出し合うことのできる場になることを目指したい。その中で、お互いを思いやる心を育んでいきたい。

4 研究内容

(1) 共にひびき合う学習の推進

- ・共にひびき合うことにより、自分と異なる考え方を知り、自分の考えを比較しながらよりよい考えを導き出し、考えの変容や高まりを得ることを目指す。
- ・互いに認め合い、支え合い、共にによりよく生きていこうとする姿勢を、道徳をふくめ様々な場で育成していく。

(2) 道徳の指導課程の確立と実践（今年度の重点）

- ・授業の流れや発問の仕方などについて、実践を積み重ねる。
(指導課程については特に限定をしない。)
- ・講師を招聘し、道徳の実践の仕方について学ぶ。

(3) 全体計画や年間指導計画の検討・作成

- ・「私たちの道徳」を中心にして作成する。
- ・指導に使えるような資料を収集し整理する。

5 研究の方法

(1) 低・中・高学年ごとにブロックテーマを決めて、研究を進める。

ブロックテーマは、推進委員会で話し合い、全学年の研究に系統性をもつようにする。

(2) 研究授業の実施

- ・全員の提案授業を計画する。(全体会7・ブロック13)
- ・授業提案をし、研究協議を行う。
- ・研究の重点を決めて進める。

1年目となる今年度は、「道徳の指導課程の確立と実践」について研究を深める。

(3) 研究協議

- ・自評は、本時目標や手立て（指導）について成果と課題を用紙にまとめ印刷し配付する。

- ・協議の柱は、「子どもが共に学び合うことのできる授業だったか」とし、参観者が付箋紙に「成果と考えること・参考にしたいこと（青）」「課題と考えること（赤）」を書いたものを使って協議をする。

（今後の研修により、さらに協議の柱を設定する可能性がある。）

- ・提案授業ごとに行い、記録する。

（４）研究だよりを発行する。

- ・各授業の成果と研究課題を発行する。（各推進委員）
- ・推進委員会の内容、研究の資料などを発行し、研究内容について共通理解を図る。

（５）指導案の形式

１ 日時・場所

２ 主題と資料

３ 主題設定の理由

（１）ねらいとする価値

（２）児童の実態

（３）指導について

- ・研究主題と副主題とブロックテーマをふまえた内容書く。
- ・資料の概要や扱う意図

４ 本時について

（１）本時目標

（２）本時展開

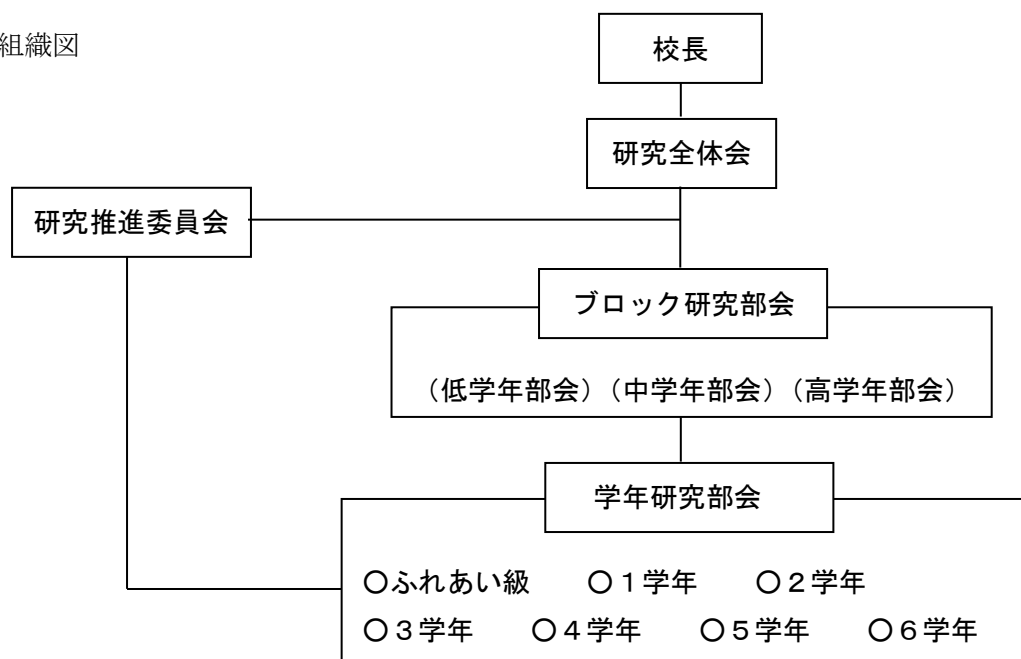
過程	学習活動	指導上の留意点
導入	学習の流れ・予想される児童の活動と反応 発問は四角で囲む。	
展開		
終末		

（６）自評用紙

授業者	
日時	
ブロックテーマ	
成果	
課題	

6 研究の組織

(1) 組織図



○研究推進委員会

- ・研究推進のための企画・立案を行う。研究協議の準備やグループの作成を行う。
- ・推進委員会だよりを発行する。
- ・研究図書などの購入と紹介をする。

○研究全体会

- ・授業者が授業提案をし、協議の柱に沿って研究協議をし、成果と課題を次に授業に生かしていく。
- ・3つの研究協議グループ（メンバーは毎回変える）で付箋紙協議をする。
- ・グループ協議の司会は推進委員が、記録発表は推進委員以外の先生方が輪番で行う。
- ・全体会の司会・記録・会場作りは学年輪番とする。

○ブロック研究会・学年研究部会

- ・ブロックテーマを決め、年間を通しての研究計画を立てる。
- ・授業者が授業提案をし、協議の柱に沿ってブロックで研究協議し、成果と課題をまとめる。

(2) 組織構成

低学年部会	教務主任・養護教諭・1年担任・2年担任
中学年部会	校長・3年担任・4年担任・図工家庭科専科・ふれあい級担任
高学年部会	教頭・5年担任・6年担任・算数専科
研究推進委員会	校長・教頭・教務主任・研究主任・各学年から1名